

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2013・5 vol.440

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟落成セレモニーテープカット

(写真左から：小林医学部長、祖父江副学長、小川理事長、山野 文部科学省大臣官房審議官、
千葉岩手県副知事、遠藤災害時地域医療支援教育センター長)

〈写真撮影：4月8日(月)、(関連記事：P3)〉

おもな内容

- 平成25年度事業計画
- 特 集 災害時地域医療支援教育センター整備 ～ 地域医療連携づくり ～
災害時地域医療支援教育センター長 遠藤 重厚
- トピックス 名誉教授称号授与式が行われました
- 表彰の栄誉 西3階看護師チームが第43回日本看護学会優秀発表賞を受賞しました
- フリーページ すこやかスポット医学講座No46 「ロボット支援前立腺全摘除術について」
泌尿器科学講座 講師 小原 航

平成25年度 事業計画

1. 背景と方針

本学は、学祖三田俊次郎先生の岩手県における医療済生の志を受け継ぎ、建学以来、多くの有為な人材を輩出し、地域医療の安定充実に努め、県民の期待に応えてきました。

この間、生命科学は目覚ましい進歩を遂げ、本学は、これに対応した最新の教育・研究・医療を実践するため、広大な矢巾キャンパスを開設、大学及び附属病院の段階的な移転整備に踏み切り、平成23年3月には医学部、歯学部を移転、同一キャンパスに医・歯・薬の三学部を有する本邦初の医療系総合大学となりました。

しかし、直後に発生した東日本大震災津波は、岩手県に甚大な被害をもたらし、多くの医療資源が流失しました。被災地は全国的に問題となっている医師不足、医師偏在が以前から深刻であり、医療の復興再生は容易ではありません。

本学は、使命とする地域医療の安定を第一義に、全学を挙げて医療支援活動を継続するとともに、ICT（情報通信技術）化を推進、過疎地医療の先進モデルの構築を目指します。また、先駆的モデルとして世界の注目を集めている学部の垣根を越えた教育を実践し、建学の精神に基づく「誠の総合医療人」を育成、地域医療の確保に資するとともに、教育の質を担保する学部横断的・学際的な最先端の研究を推進します。

一方、学部移転を完了し、総仕上げの段階を迎えた総合移転整備事業は、新附属病院の実施設計に着手、内丸地区整備の基本計画を確定します。社会構造の変化や政治経済の混迷が続き、私立大学の経営環境が一段と厳しさを増す中、この大事業を完遂するためには、多額の資金を確保しなければなりません。各種補助金の有効活用に加え、最大の収入源である医療収入の増加と経常的経費の節減に努め、経営基盤の強化を図るものとします。

以上の方針に基づき、平成25年度は、次の重点事業を実施します。

2. 主要な事業計画

(1) 総合移転整備計画関係

- ①附属病院移転及び内丸メディカルセンター（仮称）整備計画の推進
- ②日赤岩手乳児院等の敷地取得に向けた取組
- ③矢巾キャンパス緑化事業の推進

(2) 教育・研究関係

- ①医師国家試験・歯科医師国家試験・薬剤師国家試験の合格率向上対策
- ②矢巾キャンパス歯学部基礎実習室（スキルスラボ）の整備
- ③医・歯・薬三学部の研究連携を推進
- ④広汎な就職支援の展開
- ⑤機関リポジトリ構築に向けた取組
- ⑥医療専門学校の入学生の確保
- ⑦医療専門学校の国家試験合格率の高位維持

(3) 補助事業及び委託事業関係

- ①私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費補助金による機器更新
- ②私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進
- ③次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム
- ④オーダーメイド医療実現化プロジェクト
- ⑤次世代がん研究戦略推進プロジェクト
- ⑥革新的医療機器創出・開発促進事業
- ⑦がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

- ⑧災害時地域医療支援教育センター事業
- ⑨岩手県こころのケアセンター運営事業
- ⑩いわてこどもケアセンター運営事業
- ⑪東北メディカル・メガバンク計画の本格実施

(4) 医療関係

- ①手術支援ロボット「ダヴィンチ Si サージカルシステム」の導入（関連記事：10ページ）
- ②放射線治療器（直線加速器リニアック）のアップグレード
- ③中央臨床検査部採血室拡張及び検査機器更新
- ④デジタルガンマカメラシステムの更新
- ⑤歯科麻酔科診療室の増設
- ⑥循環器医療センター5階ICU増床拡充工事
- ⑦呼吸同期PET/CTによる診断精度の向上

(5) 施設設備関係

- ①本町地区及び上田地区内建物の解体と土地活用
- ②附属病院施設修繕工事
- ③内丸キャンパス外壁修繕工事
- ④循環器医療センター不活性ガス消火設備貯蔵容器更新工事
- ⑤6号館非常用発電機No.2始動用直流電源装置更新工事
- ⑥矢巾キャンパス学生クラブ活動施設等整備事業

※掲載内容は、平成25年度事業計画書より抜粋したものです。詳細は、平成25年度事業計画書及び本学ホームページ「情報公開」をご参照ください。

災害時地域医療支援教育センター マルチメディア教育研究棟が落成しました

本学は、一昨年の大災害を教訓とし、今後も継続する被災地の医療支援活動の拠点として、また、将来起こり得る様々な災害に対応できる人材の育成に資するため矢巾キャンパスに「災害時地域医療支援教育センター」の整備を進めてきました。併せて、現在進捗中の総合移転整備事業を視野にマルチメディア教育環境の整備を目指し、複合施設として建設を進めてきましたが、このほど3月29日(金)に竣工の運びとなりました。

4月8日(月)午前11時より、矢巾キャンパス建設地内において落成セレモニーを挙行し、国、岩手県、矢巾町、施工業者、本学関係者など約100名にご出席いただきました。セレモニーでは、山野智寛 文部科学省大臣官房審議官(右)と達増拓也 岩手県知事から祝辞(代読)を頂戴し、小川彰 理事長(左)が施主挨拶を述べました。

その後は、小川理事長による記者会見、施設見学が行われました。



【施設概要】

本棟は全建物が免震構造設計となっており、電源設備では500kVAの非常用発電機を備えています。

災害時には燃料の補給なしで、熱源で最大7日、発電機で最大3日分の電源供給が可能となる共用のオイルタンク(15,000ℓ)を確保しています。また、給排水設備については、単独の受水槽、緊急排水槽を有し、災害時に給水が遮断された場合には、1日300人を目安として、飲用水7日、雑用水(トイレの排水等)1.5日、緊急下水用として約3日分が使用出来る設備となっております。その他、将来的な情報部門の統合とサーバー・ネットワーク関係の集約化を想定し、大規模な100kVAの無停電電源装置(CVCF)を設置することで瞬時の停電や将来的な拡充にも対応が可能であり、災害時にも建物全体が独自に稼働出来るような設備体制が整った「災害に強い」建物です。



建物外観(災害時地域医療支援教育センター正面)



シミュレーション室

建 物 情 報

- 延床面積 9,477.8㎡
- 建物構造 RC造4階建、免震構造
- フロア構成(災害時地域医療支援教育センター)
 - 1階……災害・地域精神医学講座の居室関係、資料展示スペース、研修室等
 - 2階……災害医学講座の居室関係、備蓄関係倉庫等

- 3階……クリニカルシミュレーションセンター
- 4階……サーバ室、情報ネットワーク管理室、カンファレンスルーム等

※マルチメディア教育研究環境は、今後の総合移転整備事業の進捗とともに環境整備を行う予定です。

特

災害時地域医療支援教育センター整備

集

～ 地域医療連携づくり ～

災害時地域医療支援教育センター長 遠藤 重厚



岩手医科大学は、今回の震災に際し、様々な被災地支援を行い、行政とも連携し、大規模災害時における様々な問題を経験してきました。

以上のような経緯と経験を踏まえ、災害時の緊急医療支援体制を含む総合的地域医療支援体制を拡充・強化するための教育・研究拠点作りを目指しております。本事業では、「災害医学講座」を併設した「災害時地域医療支援教育センター」を設立し、各々の主たる役割を研究ならびに教育と位置づけ、相互に連携して、全国に発信できる災害時医療体制モデルの確立とその実践としての災害医療教育による人材育成を目指すものであります。研究内容としては、①経験してきた災害対応の問題点と情報の収集・検証を行い、②被災地とのネットワーク構築（遠隔医療を含む）を基盤とした緊急時また、中・長期における行政・大学・医療機関との有効な連携システムの研究・構築を行い、③それらからの情報をフィードバックした形で災害時対応医療人の育成を推進し、地域の医療復興をより一層加速し、④ひいては、全国規模の包括的災害時医療支援体制の確立に資することを企図しております。

また、災害時の超急性期を除いた、中・長期的な医療支援は、通常地域医療支援と相通じるものがあり、本学がこれまで推進してきた地域医療支援対策の検証も同時に行い、今後の地域医療の更なる改善・向上に資することをも目指すもので、以下にその概要について述べます。

1. 災害時における役割

(1) 超急性期～急性期（DMAT活動期）

基幹災害拠点病院（本学附属病院）としての機能のほか、次の役割を担います。

- ①DMATの参集拠点及び活動拠点病院機能
 - ・チーム受入、受付
 - ・参集したチームへの情報提供（被災地情報 等）
 - ・受付チームの活動調整 ← DMAT県調整本部（県庁に設置）の指揮下で実施
- ②被災地に派遣されたDMATとの連絡
 - ・自家発電機、通信機器の整備
- ③参集DMAT用の休憩場所機能
 - ・休憩スペース、食事・アメニティの確保・提供
- ④超急性期～急性期に必要な医薬品、医療用資器材、医療従事者用の食料の備蓄品の提供
 - ・DMATが持参した医薬品等が不足する場合を想定

(2) 亜急性期～（DMAT撤退後～被災地の医療機関の診療開始）

ア 各種医療チームの参集拠点機能

医療関係チームは、医師会（JMAT）、大学病院、日赤、国立病院機構、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等です。

- ①全国から参集する医療関係チームの受入機能
 - ・チーム受入、受付
 - ・参集したチームへの情報提供（被災地情報等）
 - ・休憩場所等としての開放
 - ・その他活動支援

②受付チームの活動調整

・県庁に設置されるコーディネイト機能の指揮下で実施

イ アドバイザー機能

- ①被災地の医療ニーズの把握・分析機能
- ②支援策の企画立案
- ③県庁に設置されるコーディネイト機能への提案

ウ 確立された災害時医療提供機能

- ①経験してきた災害支援体制の問題点に関する情報収集・検証の実施による確立された災害時医療の提供

(3) 他の都道府県で発生した災害への支援活動

ア 被災地への医療チーム派遣

- ①同教育センターで養成された医師等の医療チーム派遣、医療支援活動の実施
- ②支援活動を通じて災害医療の新たな研究課題・知見等の蓄積

イ 後方医療施設としての負傷者の受入れ

- ①広域医療搬送による負傷者の受入れ
 - ・首都直下型地震、南海トラフ地震等、大規模かつ広域的な災害を想定
 - ・首都直下型地震等日本経済の中心が被災し、燃料、医薬品、食料等の流通が滞ると仮定すると、一定規模の備蓄、病院機能の維持が行われている病院へ、患者受入れの要請があると思われます。

2. 平時における役割

(1) 災害医療コーディネータの育成支援

災害医療コーディネータは、被災地の医療ニーズの把握、全国から参集する各種医療関係チームの活動調整、支援策の立案等を主に亜急性期～中長期にわたって実施する役割を担います。県の災害対策本部や各保健所等の各地域に配備する予定です。

- ①災害医療コーディネータの育成のプログラム開発
- ②災害医療コーディネータの育成支援
- ③災害医療コーディネータ向けの定期的な研修会の実施

(2) 中長期的な災害医療支援者向けの研修プログラム開発

- ①JMAT等DMAT以外の医療関係チーム向けを想定

(3) 災害医療関係者や救助関係向けの公開講座の開催

医療従事者、医療関係団体、消防、警察等、行政向け災害医療に関連する内容の公開講座を想定しています。



教育研修会の様子

3. 災害時から平時における役割

(1) 遠隔医療システムによる診療維持機能

テレビカンファランスの活用により、遠隔診療支援ならびに遠隔診療の取組みを実施する。

(2) 資料データのバックアップ・共有機能

免震構造・非常用電源装置を備えたセンターに本学

の診療データをバックアップする。

今後は、患者データを集積する機能により、本学と被災地県立拠点病院間でデータの共有化を目指す。

(3) こころのケアセンターと連携した医療支援機能

4. 被災地医療への直接効果

(1) 災害時における救命率の向上

同センターに設置するクリニカルシミュレーションセンター等の設備を用いてより実効性のある災害医療教育を受けた医師等による迅速かつ的確な災害医療支援活動の展開

(2) 災害医療活動の技術の向上

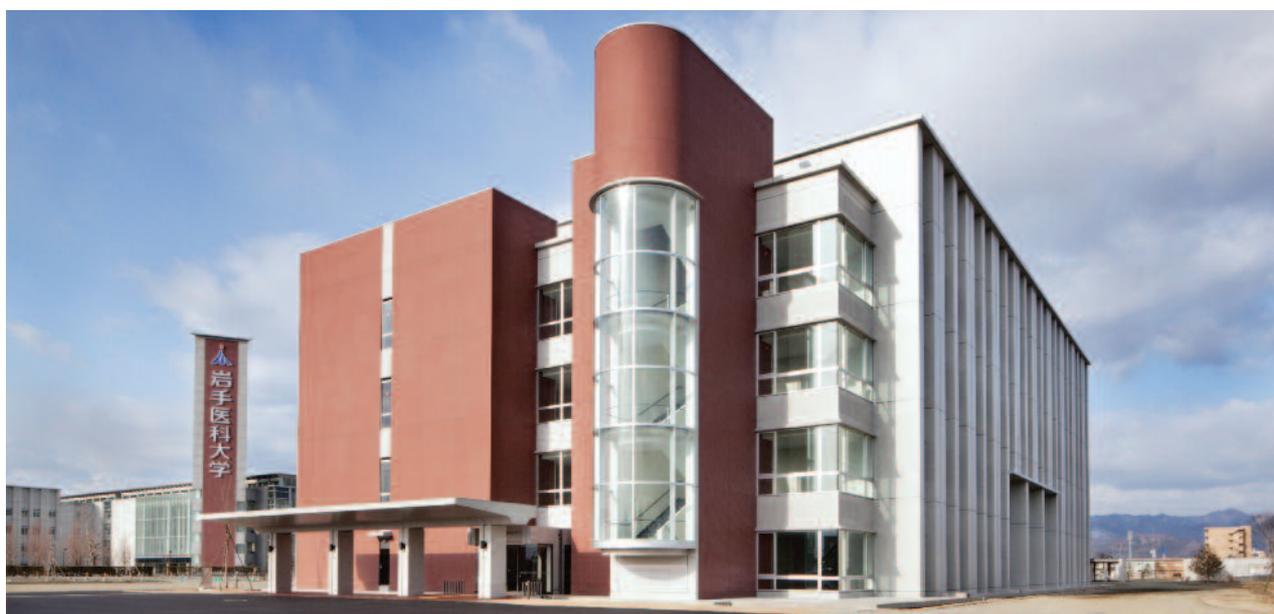
(3) 被災地の医療の質の維持

(4) 災害医療の研究機関としての役割 — 蓄積された研究効果の実践 —

(5) 被災地の医療ニーズの分析、対応計画立案機能

限られた医療資源の効率的な配分を実施します。

現在、岩手医科大学から全国に向けて発信すべく取り組んでおりますが、その実行に際しましては、関係者の皆様の絶大なるご支援をお願いする次第です。3月に竣工いたしました施設の外観もあわせ掲載させていただきます。



名誉教授称号授与式が行われました

平成25年度の名誉教授称号授与式が、4月2日(火)午前9時から創立60周年記念館理事長室において行われ、称号を授与された5名の先生方と小川理事長、祖父江副学長をはじめとした大学関係者が出席しました。

式では、小川理事長が一人ひとりに名誉教授の称号を授与し、これまでの大学貢献に対して感謝の言葉を述べました。

(右写真：称号を授与される鈴木名誉教授)



◆名誉教授称号授与者 (平成25年4月1日付)

鈴木 一幸 (前 内科学講座消化器・肝臓内科分野教授)

二井 将光 (前 機能生化学講座教授)

嶋村 正 (前 整形外科学講座教授)

西郡 秀夫 (前 薬剤治療学講座教授)

高橋 勝雄 (前 臨床薬剤学講座教授)

平成25年度入学式を挙行了しました

岩手医科大学の入学式が、4月9日(火)午前10時から岩手県民会館大ホールで行われました。今年度の入学生は、大学院医学研究科博士課程34名・修士課程6名、歯学研究科博士課程13名、薬学研究科博士課程2名、医学部123名・3年次編入学8名、歯学部59名・2年次編入学12名、薬学部187名でした。

岩手医科大学医療専門学校の入学式は、4月6日(土)午前10時から歯学部棟4階講堂で行われ、歯科技工学科10名、歯科衛生学科42名の入学生を迎えました。



岩手医科大学入学式



岩手医科大学医療専門学校入学式

新入教職員辞令交付式が行われました



本法人の平成25年度新採用者に対する辞令交付式が、4月1日(月)午前9時30分から歯学部棟4階講堂において行われ、採用者221名が辞令書の交付を受けました。

式典では、新入教職員の呼名の後、新入教職員を代表して神経精神科学講座助教の小泉範高さん(左写真)が辞令を受けました。その後は小川理事長の式辞に続いて、看護師の山田なつみさんが誓詞を述べました。

辞令交付式後は、オリエンテーションが行われ、新入教職員の皆さんは真剣な眼差しで参加していました。

◆採用者内訳は次のとおりです

助教27名、専門研修医14名、臨床研修医3名、臨床研修歯科医42名、事務員8名、薬剤師8名、臨床検査技師3名、診療放射線技師3名、理学療法士1名、視能訓練士1名、臨床工学技士1名、歯科衛生士1名、技術員補2名、写真技術員1名、看護師102名、GMRC(ゲノム・メディカル・リサーチ・コーディネーター)4名

「ニュートンのリンゴの木」植樹式が行われました

矢巾キャンパスへの学部移転に伴い、東京大学大学院理学系研究科附属小石川植物園様より、本学の医・歯・薬学部生の向学の証とするため「ニュートンのリンゴの木」の穂木を譲り受けました。

4月6日(土)午前10時から、矢巾キャンパスで記念植樹セレモニーが行われ、祖父江副学長(左)と譲り受けに携わった口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野の小豆嶋教授(右)により苗木が植樹されました。

ニュートンのリンゴの木は、科学の振興啓発のシンボルとして、現在、全国各地の学校や科学にかかわる施設へ穂木で分譲されています。



3学部合同学生セミナーが行われました



4月20日(土)から2日間にわたり、八幡平市安比高原のホテル安比グランドにおいて平成25年度3学部合同学生セミナーが行われました。

このセミナーは、医・歯・薬学部生が連携し学部の垣根を越えて学ぶ大切さを体験しようと昨年度から行われているもので、今年で2回目の開催となりました。

3学部の6学年各20名が各学部混成のグループに分かれて症例テーマの病態・治療法・薬の処方などを討議しました。また、教員も交えて医学・歯学・薬学の知を結集した討論や発表が行われ、医師・歯科医師・薬剤師によるチーム医療の意義について確認しました。

理事会報告

■ 3月定例 (3月25日開催)

1. 平成24年度補正予算について
2. 平成25年度事業計画について
3. 平成25年度予算について
4. 本町地区及び上田地区内建物の解体について
老朽化が著しい本町地区及び上田地区内の建物(第二体育館、第二医大寮、旧看護師宿舎等)を解体することについて承認
5. 名誉教授の称号授与について
二井 将光(前 薬学部機能生化学講座教授)
西郡 秀夫(前 薬学部薬剤治療学講座教授)
高橋 勝雄(前 薬学部臨床薬剤学講座教授)
(称号授与年月日 平成25年4月1日付)
6. 役職者の選任について
総合情報センター長 澤井 高志(再任)
(任期 平成25年4月1日から平成26年3月31日)
附属病院副院長 杉山 徹(新任)
(任期 平成25年4月1日から平成27年3月31日)
キャリア支援センター長 上原 至雅(新任)
学生副部長 佐塚 泰之(再任)
学生副部長 松政 正俊(新任)
総合情報センター副センター長 小山 耕太郎(再任)
(任期 平成25年4月1日から平成28年3月31日)
7. 理事の選任について
第5号理事 前田 正知(新任)
(任期 平成25年4月1日から平成27年2月22日まで)
8. 理事の職務担当区分について
薬学部関係担当: 前田 正知理事
9. 評議員の選任について
第4号評議員 前田 正知(新任)
第5号評議員 高橋 敬(選任区分変更)
第6号評議員 二井 将光(選任区分変更)
(任期 平成25年4月1日から平成28年3月31日まで)
10. 教育職員の人事について
医学部高気圧環境医学科
特任教授 別府 高明(前准教授)
(発令年月日 平成25年4月1日)
11. 職員就業規則等の一部改正について
高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部改正に伴い、職員就業規則及び再雇用職員に関する規程を一部改正
(施行年月日 平成25年4月1日)
12. 組織規程の一部改正について
平成25年度からの大学院薬学研究所開設に伴う一部改正
(施行年月日 平成25年4月1日)
13. 大学院奨学規程の一部改正について
平成25年度からの大学院薬学研究所開設に伴う一部改正
(施行年月日 平成25年4月1日)

表彰の栄誉

西3階看護師チームが 第43回日本看護学会優秀発表賞を受賞しました



西3階看護師の吉田貴子さん、熊谷さやかさん、嶋守一恵さん、村上キヨ子さんは、平成24年8月23日から2日間にわたり静岡県コンベンションアーツセンターグランシップで開催された第43回日本看護学会・看護総合において、日本看護学会優秀発表賞を受賞しました。

受賞演題は「創傷処置における接触感染予防の検討」で、院内感染が医療者の手指を介して伝播するリスクが高い背景を踏まえ、接触感染予防策に沿った手順を標準化し遵守率向上にむけた病棟独自の取り組みを発表しました。

受賞演題は、4年に一度開催されるICN（国際看護師協会）メルボルン大会（本年5月18日から6日間にわたり開催予定）の発表題目に選出されており、嶋守一恵看護師が「日本代表」として発表を行う予定です。

前列左から／吉田看護師、村上主任看護師
後列左から／熊谷看護師、嶋守看護師

第109回大学報編集委員会

日 時：平成25年5月16日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、齋野 朝幸、小山 薫、佐藤 仁、山尾 寿子、佐々木 光政、米澤 裕司、

昆 由美子、佐々木 忠司、畠山 正充、鈴木 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子

編集後記

先日、出雲大社で60年に一度の「大遷宮」が行われた記事を目にしました。本殿階段を覆うひさし階陰には大船渡の松を使う事が決まっていたのですが、そんな矢先に東日本大震災が発生したといいます。製剤工場は高台にあり被災は免れましたが、何もかも遮断された中で納期最終日3月31日に届けられ、去る5月10日に本殿遷座祭が執り行われました。

職人達の使命感に触れる記事を読み、災害支援活動の拠点病院として自分達も“こだわり”を持ち役割を遂行することが必要だと感じています。

(編集委員 山尾寿子)

岩手医科大学報 第440号

発行年月日 平成25年5月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポット医学講座 No. 46

泌尿器科学講座

講師 小原 航



ロボット支援前立腺全摘除術について

●前立腺がんの治療法

現在、前立腺がんに対しては様々な治療法があり、年齢やがんの広がり具合などに応じて治療法が選択されています。がんが前立腺にとどまっていたり治療が期待される場合に推奨される治療法の一つが根治的前立腺摘除術です。この根治的前立腺摘除術には大きく分けて、開放手術と腹腔鏡下手術があります。ロボット支援前立腺摘除術は、腹腔鏡下根治的前立腺摘除術をロボット支援下に行う手術です。なお、ロボットが独自に手術を行うのではなく、術者が機器（ロボット）を操作して手術を行い、機器が精密な動きや詳細な画面を補助する仕組みです。ロボットの操作には熟練が必要なため、手術システムの使用のために認定ライセンスを受けた術者および手術チーム（医師、看護師、ME）により行われます。

●ダヴィンチSiサージカルシステム

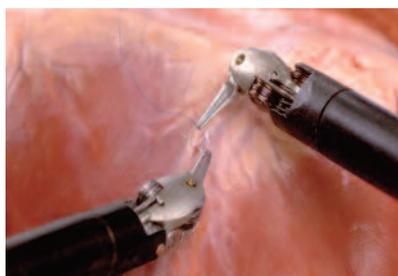
当院においても2013年3月にダヴィンチSiサージカルシステムが導入され、5月下旬よりロボット支援前立腺全摘除術が開始予定です。このダヴィンチSiサージカルシステムの特徴としては、サージョンコンソールが2台あり、2名の術者によって手術を行うことができるため手術指導



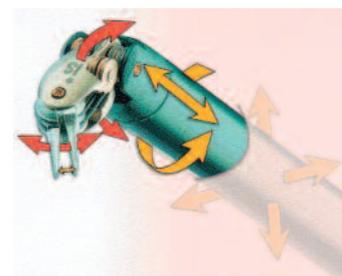
や教育に有用とされています。また、高解像度3D画像によって、より詳細な解剖を把握できる、多自由度を有する鉗子により複雑な手術操作に対応できる等の利点があります（図）。現在は、前立腺全摘除術のみが保険適応ですが、今後は様々な手術への普及が期待されています。



高解像度3D画像



多自由度を有する鉗子



EndoWristインストゥルメント

●ロボット支援前立腺摘除術の利点

従来の開放手術による根治的前立腺摘除術に比べて、傷が小さく痛みが軽度であり、出血量が少ない、前立腺周囲に走行している神経血管束（男性機能や尿道括約筋機能に関連）を温存することにより、男性機能の保持・回復が早い傾向があり、術後の尿失禁の回復も早いとされます。

前立腺がんの心配な方、治療法について知りたい方がいらっしゃいましたら、お気軽に泌尿器科までご相談ください。